

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年9月12日】第135号



昆虫博士が子どもたちを魅了

農大稲花小では東京農大や関係団体・企業の方々に、子どもたちへの授業をお願いしています。2学期の稲花タイムの第一弾は、9月6日(火)に行われた(一財)進化生物学研究所の研究者山口就平先生による授業でした。海外の昆虫やその生態に関する調査を行い、また、著書も多い山口先生から「いろいろいるから面白い昆虫の話」をしていただきました。毎月一回、本校の子どもたちのために、進化生物学研究所から昆虫標本を運んで展示して下さっている山口先生ですが、この日も、稲花タイムの授業用スペシャル標本をお持ちくださいました。巨大な、あるいは変わった模様のチョウ、大小の珍しいカブトムシ、鮮やかなタマムシなどの、本物の力に、子どもたちはすっかり魅了されていました。山口先生の南米などでの昆虫探索旅行の話も、本校の子どもたちの冒険心に火をつけたにちがいありません。

秋冬野菜の種まきはじまる

9月に入り、1年生はダイコンの、2年生はカブの種まきをしました。学校から「稲花小の畑」に歩いて行き、畑の先生湯浅さんの指導で播種をします。畑へ行くのにも慣れ、子どもたちはきちんと指示を理解して、種を播いていました。中にはもらったばかりの種を落としてしまう子や、まとめて埋めてしまう子など、ちょっと心配な子どももいましたが、経験を積んで丁寧な作業ができるようになることを期待しています。「ダイコンはもらえますか」「いつ、もらえるの」と子どもたちの気持ちは、早くも収穫に向かっていました。中には、1学期に家庭に持ち帰って育てたハツカダイコンを思い出した子どももいました。ハツカダイコンよりもはるかに大きいダイコンができるのは楽しみです。2年生は「大きなカブ」のお話でもなじみのあるカブ、3年生は、城南コマツナの種まきをしますが、どちらも成長が楽しみです。なお、1年生は別途、春に咲く草花の種まきをする予定です。

安全な登下校に向けて

本校の子どもたちは、徒歩だけでなく、バスや電車を乗り継いで登下校しています。通学中のマナーや安全については、学校だけでなく、ご家庭での指導が大切だと考えています。子どもの理解や発達の程度が異なり、また、通学経路も異なるからです。普段はマナーのよい子どもでも、友達と一緒になるとつい自制心が失われるということがあるのです。また、成長につれて、好奇心が旺盛になり、大人が思いもつかない行動をする子どももいて、驚かされます。

本校では不適切なマナーや危険な行動があった場合は、すぐに当該の子どもに注意するとともに、保護者にもそのことを伝えています。事故が起きる原因となったり、事故でけがをしたり、あるいは思いがけない悪意による不測の事態を招いたりすることがあってはいけません。しばらくの間、保護者が付き添っての登下校とすることもあります。忙しい保護者には、付き添い登下校のために

時間の調整も必要になります。しかし、ほとんどの保護者が学校からの要請に応じて、1週間程度の付き添い登下校をすぐに開始し、その間、子どもとしっかり向き合って指導してくださっています。保護者との登下校を経て、子どもの登下校の態度が見違えるように良くなるのは嬉しいことです。最近、最上級生である4年生が通学中の下級生を見守る様子も見られるようになりました。これも、嬉しいことだと感じています。

富士農場校外学習

9月7日(水)に3年1組が、8日(木)には3年2組が、東京農業大学富士農場に校外学習のためバスで訪問しました。7日は生憎の霧雨でしたが、農場のご厚意で張られた大テントの中に椅子とテーブルを用意していただき、持参の弁当と朝に絞った農場の美味しい牛乳を飲んで昼食としました。その後、野口龍生准教授のご指導で、有精卵に血管が発達している様子をライトで観察、自分で一つつつ採った卵を洗卵、豚舎では小さい仔豚から迫力ある雄豚までに出会い、さらに牛舎でも肉牛や乳牛を見たり触ったりしました。超音波診断装置で、牛の子宮内の胎子の様子も見せていただきました。8日も同じプログラムが実施されましたが、こちらはお天気が回復、富士山の姿も見られました。

実物の力は素晴らしいです。子どもたちは真剣に先生の説明を聞き、一日にどのくらい餌をやるのですか、牛の角の向きがちがうのはなぜですか、途中で死んでしまったヒヨコはどうするのですかなどと質問は途切れませんでした。燃料代、飼料代も高騰しているが肉や牛乳の値段を抑えられるようにしているのは、誰のどのような努力によっているのか、考える一幕もありました。牛乳をもっと飲もうと思った子どももいたことでしょう。有精卵や胎子の観察、三元豚の作出、家畜の出産など命や生殖にかかわるお話もありましたが、子どもたちの受け止め方は科学的かつ素直で、大学生になったら農場で勉強したいと言った子どもが複数いたことにも、それが表れていると思いました。野口先生をはじめ、農場の皆様には大変にお世話になり有難うございました。

3年生は全員、農場で生産されたホロホロチョウの卵を4個、お土産にご家庭に持ち帰りました。事前学習でその硬さを実験した子どもたちです。ご家庭でも、ホロホロチョウや農場での体験について、子どもたちの話をじっくりと聞いていただけたことと思います。

入試説明会

入試説明会(オンライン)を、9月9日(金)夕方に1回、9月10日(土)午前に2回、開催しました。各回、ほぼ満席のお申し込みをいただき、感謝しています。今回は年長児の保護者様が対象ですので、出願や受験についての具体的な説明を中心とし、学校の紹介は最小限にとどめました。すでに学校説明会ほかで、農大稲花小についての理解が深い方々ばかりが、この入試説明会に参加されていると考えたからです。しかし、36名を1クラスとし、様々な個性の子どもたちが一緒に、集団の中で学ぶ大切さについては、改めてお話させていただきました。学校の教育理念とご家庭の教育方針、そしてお子様の特性が合っていてこそ、充実した6年間が過ごせると考えています。

校長 夏秋 啓子